

「誰でも時給1,500円の最賃引き上げデモ」 全国で“28円”に怒り! 生活できる賃金を!



東京地方最低賃金審議会は、中央最低賃金審議会の目安伝達を受けて、東京の最低賃金について審議を開始し、わずか4日後の21日に中央最低賃金審議会の目安額28円に上乘せすることなく、「28円引上げ・時間額1041円」を東京労働局長に答申しました。

今回の答申は、私たちの切実な実態と要望が反映されず、東京で生きるに必要な最低賃金額に遠く及ばない目安額の答申となり、到底容認できません。早期に全国一律の最低賃金時給1500円を実現するために広範な世論に訴えて運動を強化していきましょう。

新宿アルタ前から歌舞伎町まで 1500円を訴えてデモ行進

7月20日(火)、新宿区労連、新宿一般などで構成している「最賃アピールデモ実行委員会」

主催の「誰でも時給1,500円の最賃引き上げデモ」が新宿アルタ前から新宿歌舞伎町までの集会とデモに、CU文京から、伊東弘子、伊藤弘、小川富弘と文京労連の鈴木議長の4名が初めて参加しました。

最賃引き上げ全国で28円が報道されたばかりの中で、1,500円を訴えてデモ行進を行いました。緊急事態宣言発令されている中、オリンピック開幕直前に新宿の人通りが激しい夕方に、宣伝カーや拡声器の声を先頭にシュプレヒコールを叫びながらデモ行進が行われました。私も本当に久しぶりにシュプレヒコールのあるデモに感激しました。記憶に残る1日でした。

(CU東京文京支部 小川委員長)

文京では最低賃金を全国一律の制度にし、抜本的に引き上げることを文京区議会に請願しています。

新副委員長を4人迎え あらたな一步を踏みだした 女性2人、さらに20代の青年も 新副執行委員長紹介

未曾有のコロナ禍の1年のなか、7月17日にCU東京第13回大会が開かれました。CUは「破壊された雇用」とたたかい、相談は470件にのぼりました。組合員数は大きな前進となり、目指した1600人に達しました。大会では、財政支援、共済制度、相談態勢、組合拡大と多岐にわたる要望も出されました。大会では、運動の前進を受けて、課題別委員会を確立し、あらたな一步を踏みだします。

新しい執行部に女性7人が選出され、女性の副委員長2人、さらに20代の青年を副委員長に迎えました。新しく副委員長になったみなさんをご紹介します。

伊東 弘子さん（文京）



ジェンダー視点に立った女性の学習・交流会を広げ「CUの組合員でよかった。」とだけ思っていたような活動を展開できればと思います。

新任である現在の初心の感覚を大切に、持続可能な活動・居場所づくり・運動の担い手になるような自己実現のサポートなどを目指して努力をしていきたいと思っています。

皆様からたくさんのご意見をいただきたく思います。

よろしくお願いいたします。

松井 優希さん（こうとう）



この度の定期大会で副執行委員長に就任しました地域労組こうとうの松井優希です。

今から6年前、自身の相談がきっかけで江東区労連と出会いました。その後無理を言ってアルバイトで勉強させてもらい、4年前から専従書記として活動しています。今の自分があるのは地域労組こうとうの組合員はじめ役員の皆様のおかげです。心から感謝申し上げます。

コロナ禍はこれまで景気に支えられていて表面化しなかった脆弱な生活基盤の人たちを可視化させました。今こそ労働組合がこの実態を社会問題化し、労働法制を抜本的に改正させる運動を強める時だと思っています。皆さまご指導よろしくお願いいたします。

田辺 陽子さん（こうとう）



今期より副執行委員長に選出されました。副執行委員長にと声がかかった時は、自分が一番びっくりしました。

私が大切にしていることは、楽しく活

動していくことです。私自身が生き活きと活動できなければ、心からCU東京の魅力を語れないと思うからです。職場で悩んでいる人に、相談できる場所があることを知ってほしいです。その為にも、学習し交流して、非力ながらも努力していきたいと思えます。

宮本 一さん（三多摩）



これまで書記次長でしたが、今期より副委員長として活動することとなりました。所属する三多摩協議会では労働相談員の一人としても活動しています。

コロナ禍で弱い立場の労働者が、職場でのいじめ、パワハラ等で心の病を発症してします。とくに女性に多く、寄り添う仲間が存在が必要です。このたびCU東京に女性センター役員が増えたことに大きな期待をもっています。一緒に頑張っていきたい。

〈大会開催しました〉

地域の仲間と共に取り組みを 第12回定期大会を開催 港支部



CUみなとは、7月31日（土）東京土建みなと会館で第12回定期大会を開催しました。新型

コロナウイルスの感染拡大のなかでの大会開催で「委任状」を中心とした開催になりました。

大会は、大会議長に青木一夫副議長を選出し、池田孝治委員長があいさつ。来賓はコミュニティユニオン東京の寺川書記次長と港区労連清水議長から激励・連帯あいさつがありました。寺川書記次長からは「こみゅーと」に掲載されたCUみなと結成準備会の記事を紹介しながらの激励のあいさつがありました。

第11期活動報告と第12期活動方針、第11期決算報告と第12期予算を高橋書記長が提案。高橋書記長は「CUみなとの活動は労働相談・団体交渉を中心に取り組んできた。第12期活動も労働相談・団体交渉を中心に活動し、早期に60人の組合員を達成し、100人のCUみなとをめざす」ことを強調して提案しました。

討論は4人が発言。労働相談活動通じての発言や解決すると脱退することへの質問、コロナ禍のなかで10万人もの労働者が職を失っているのに加入が増えないのかなどの発言がありました。脱退する主な原因は職場に協力者・共感者がいず、金銭解決になっていること。退職後は他区や他県で働くこと。居住地が他区や他県であることなど港区とのかかわりがないこと、解決までの期間に労働組合への理解が不十分だったことが大きな原因になっています。発言ではコロナ禍のなかでの学習会を工夫して取り組んでは欲しいとの要望が出され、検討していくことになりました。

提案された議題を採決した後、第12期役員選出が行われ、提案された役員全員が第12期役員として確認されました。選出された3役は以下のとおりです。（敬称略）

執行委員長	池田 孝治
副執行委員長	青木一夫
	植松富美枝
	小川 均
	川崎悟
書記長	高橋 孝

三多摩が第7回大会 専従体制へ500人組織めざす 三多摩協議会



昨年に続き、コロナ禍における開催となったCU三多摩第7回大会は、8月1日(日)北多摩西教育会館において執行委員に限定して開催しました。

来賓には本部高木書記長、鈴木副委員長及び三多摩労連の菅原副議長が来られました。高木本部書記長は、CU東京がコロナ禍一層の困難にあえぐ労働者が増加する中、470件の相談に対応し、前回時176人増の1600人組織を達成したことを、三多摩の協力に感謝すると述べ、新体制への期待を語りました。

提案は34件の相談実績、個人加盟労組の役割の高まり、三多摩で350人から500人組織めざし専従体制を作る事が必要など課題も確認されました。討論では4人が発言し、労働相談員の拡充、女性の役割、HPやSNS利用、財政強化などの発言。本部鈴木副委員長も、ネット利用での相談が多いことやSNSなどの経験を披露されました。

駆け込み寺機能をさらに高め、来期まで350人実現の決意を固めました。新体制では宮田委員長、大江書記長ほか26人の執行委員を選任しました。

執行委員長 宮田清志
副執行委員長 尼崎学 三宅一也 小野塚洋行
佐藤義見 鶴岡誠一
福田かつこ 星憲彦
書記長 大江拓実

CU東京の助け合い共済

入院見舞金制度 1日5,000円

万が一を、CU東京の入院見舞金制度

・「入院共済」がサポート

入院共済は病気やケガの入院に、1日5千円の給付がされます。4日以上連続の入院が対象です(協力組合員、交通事故は対象外)。年間60日が最高限度日数です。2020年度は29人の組合員に、総計約300万の給付をしています。

交通災害共済(全労連共済)

国内の交通事故が対象

- ・入院日額3千円
- ・実通院日額1千円、
- ・死亡 200万円
- ・障害 8万~200万円

詳しくは支部、本部にお問い合わせ下さい

◆最低賃金の各地方審議会が答申を出し始めた。東京は中央の目安にとどまる28円の答申。時給1500円以上なければ生活できないというのが全国の調査結果だ。このテンポでは1500円には16年以上かかる。「まともな生活できない」「大幅引き上げが必要だ」みんなで声を上げよう。◆コロナ感染症患者の「入院制限」は国民の怒りと自民党から共産党まで撤回の声に、田村厚労相は答弁を二転三転。菅首相の目も泳いでいる。政府方針は「医療崩壊」を認めたことと同じ。検査を徹底し、自粛要請には補償し、ワクチン接種をしっかりと進めることだ。◆今号では、新しく副委員長になった4人に抱負を寄せていただいた。自画自賛ではないがCUの活動と組織の幅を感じる。20代の青年、松井さんは自らの相談を契機に、労働運動に飛び込んだ。現在、江東区労連の専従。宮本さんは集団農園で英気を養い張り切られている。力合わせ、相談に応えていきたい。